

今回、20年前に起きたJCO臨界事故についての集会及びデモ行進に参加して私自身思うことがいくつかありました。

事故当時6歳で東海村村内の保育園で遊んでいた私ですが、村内放送の指示で屋内待機を言われ保護者の迎えがくるまで待機していた記憶が微かながらにあります。幼少期の私にとって何が起きたのか知る由もなかった当時のJCO臨界事故、今回の集会で聴講した事故の内容、被害者遺族の思い、今なお続いている裁判の事などとても胸を痛めるものばかりで、私の原子力発電への見方が変わったといっても過言ではない集会になりました。

JCO臨界事故を語り継ぐ会という意味、20年たっても語り継がなければいけない悲惨な出来事だったということ、決して風化してはならない、そして忘れ去られることが一番の悪だと思いました。事故自体も旧動燃の無理な発注に対しJCOが核燃料の製造工程の裏マニュアルの更に裏マニュアルで作業をしていたことが原因で



JCO臨界事故 20周年集会に参加して 原子力発電への見方が変わった！

ひたち支部青年女性部
鈴木 築



起きてしまい、残念なことに日本国内で初の被ばくによる死亡者を出してしまった当時の事故。この話を聞き、悲しみの感情と共にいくら作業の効率化を図るためとはいえ限度があるだろうという怒りの感情も湧き、このような事故は繰り返してはいけないと思いました。

また、集会やデモには県外からいらした方も多く県内県外、延べ300人程の人が集まってデモ行進を行った事に対してデモ行進自体が初見であった私としては圧倒されるものでした。更に参加人数300人中50人ほどが全港湾の団体で占められたことは、月並みですが凄いという言葉に尽きると思います。北は八戸から南は横浜まで遠路はるばるお越しくくださった方々には感謝の思いと、全港湾の強くて深い横のつながりを実感しました。

デモ行進後には懇親会が開かれ、組合に加入してから日が浅く、こういった場に慣れない私に対して気さくに接していただいた他支部の組合員の方々に人の温かさを感じ、親交を深める中で楽しいひと時を過ごせた事もあり、今回の組合活動に参加できて本当によかったと思いました。



キンモクセイのいい匂いが漂うようになれば、参加しても観ても楽しい「秋祭り」の時期になります。

10月5日の宵宮祭から始まり、7日の本祭りまで松山市内の各町内は、三橋美智也の祭り音頭で盛り上がり、子供中心の提灯行列を皮切りに、宮出し宮入と続きます。待望の7日には、午前1時からの三つの「暁の宮出し」で始まり、各町内の神社での年に一度の血流が早くなる、楽しい楽しいアホな男達の秋祭りスターティン！



五穀豊穡・商売繁盛・
家内安全を願って
「モテコイ！モテコイ！」

松山秋祭りで有名なのが、道後駅前で行われる午前5時30分からの喧嘩祭りと言われている、重さ約1トンの神輿8台による「鉢合せ」が一番の見どころです。

坊ちゃん列車がある駅前で、御分霊を入れた神輿（みこし）を横向きに据え7メートル位の感覚で、約200人のかき夫（担ぎ手）達が「モテコイ！モテコイ！」の掛け声でにらみ合い、神輿の上に乗っている二人の合図で、かき夫達が神輿を担いで走り出し、神輿同士をぶつけ合います。この「鉢合せ」は、身を乗り出したくなるほど見ごたえあります。

この「鉢合せ」を待ちわびた歓声はかき夫の怒声よりも響き渡り、神輿同士がぶつかり合った「ドスン」という鈍い音で頂点となります。熱気は上昇し、せり合いで神輿が横倒しになったり、そのまま押されたりして多くのけが人が出ます。この祭り期間は、松山で一番救急車の待機台数が多くなることで、この祭りが如何に危険で激しいってことを分かってもらえれば幸いです。

安全を願って松山秋祭り

モテコイ！



また、神様を乗せた神輿同士をぶつけ合ったり、神輿の上に乗ったりする激しい祭りは、日本中でも珍しいと思いますので、是非一度ググってみてください(笑)。ちなみに、神輿を激しく揺らすのは神の靈威を高める行為とされ、鉢合せは神輿に激しい衝撃を与えることから「神輿振りの究極の姿」をされているそうです。

そんなこんながあっけか、松山秋祭りを題材にガスパール・クエンツ監督による短編ドキュメンタリー「渦」が作成され、東京や世界各地の映画祭で「デンジャラス・ドッグス」の内の映画として上映されています。是非、激しい松山秋祭り見学や日頃の疲れを癒しに道後温泉に来てください！

最後に平成30年の西日本豪雨では、愛媛の南予・中予にも甚大な被害が出ましたが復興が進んでいます。今回の台風19号で災害に遭われた方には、心よりお見舞い申し上げます。共に頑張りましょう！

(松山支部副執行委員長 山口善仁)

五穀豊穡・商売繁盛・家内安全を願って「モテコイ！モテコイ！」

原子力空母 横須賀配備に抗議！

10月1日、横須賀市ヴェルニー公園において「原子力空母ロナルド・レーガン横須賀配備抗議！母港撤回を求める10・1全国集会」が今年も開催された。

今年で原子力空母が横須賀に配備されてから10年が経過したが、この3年の間で空母の新鋭随伴艦が追加配備され、横須賀基地の機能強化が図られてしまっている。米軍ヘリや自衛隊機の離発着訓練が繰り返され、オスプレイも飛来するなど、騒音被害もたえず、墜落がいつ起こるかの不安もぬぐい切れず、原子力空母の放射能災害の危険性も周辺住民を脅かし続けている。原水禁・平和フォーラムは、原子力空母が一刻も早く退去するよう今年も全国の仲間と共に訴え続けた。

